

令和元年度地方創生対策特別委員会県外視察の概要

1 参加委員

杉本 直樹（委員長）、梶原 一哉（副委員長）、井川 龍二、岩佐 義弘、
元木 章生、高井 美穂、山田 豊、原井 敬

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月26日（月）	福井県勝山市役所（福井県勝山市）
	一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）
8月27日（火）	福井県立恐竜博物館（福井県勝山市）
	えちぜん鉄道株式会社（福井県勝山市・福井市）
8月28日（水）	文化庁地域文化創生本部（京都府京都市）

3 調査目的及び視察概要

（1）福井県勝山市役所

（調査目的）

福井県勝山市は、国内で最大の恐竜化石発掘地であり、恐竜をメインテーマとした「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークに認定され、勝山市全体を大地の公園としてまちづくりを進めるほか、市内に恐竜モニュメントを設置するなど、地域の資源である恐竜を生かした観光振興を進めている。

これらを踏まえ、恐竜を活用した地域振興・観光誘客について調査を行った。

（視察概要）

恐竜渓谷ふくいジオパークの概要や取組例、ジオターミナルの建設・整備状況、勝山市観光まちづくり株式会社による観光の産業化や勝山市における観光の課題と今後の動きについて、説明を受けた。



(2) 一乗谷朝倉氏遺跡

(調査目的)

一乗谷朝倉氏遺跡は、戦国大名朝倉氏の城下町跡であり、特別史跡、特別名勝、重要文化財と国の三重指定を受けた貴重な施設である。義景館跡の唐門を中心に平面復原及び忠実に復原された町並を散策することで、戦国ロマンを満喫し、往時を垣間見ることができる。今年度のGW期間中の観光客は、前年比68.3パーセント増となるなど、近年は、全国から多くの観光客が訪れている。

これらを踏まえ、歴史上の人物に関する資源を活用した観光誘客について調査を行った。

(視察概要)

朝倉氏の歴史や当遺跡の概要、観光誘客への取組について説明を受けながら、復原町並、朝倉館跡、館跡庭園を見学した。



(3) 福井県立恐竜博物館

(調査目的)

福井県立恐竜博物館は、世界三大恐竜博物館の一つに数えられ、40体以上の恐竜全身骨格ほか千数百点の標本や巨大復元ジオラマなどが展示されている。平成12

年の開館以来、累計の入館者数が本年3月31日に1000万人を突破したところであり、年間入館者数が100万人に迫る福井県を代表する観光文化施設である。

これらを踏まえ、次の内容について調査を行った。

- ①恐竜を活用した観光誘客について
- ②施設見学

(視察概要)

当該施設の概要や入館者の状況、来館者へのサービス向上への取組、恐竜化石発掘調査の状況について説明を受け、施設を見学した。



(4) えちぜん鉄道株式会社

(調査目的)

えちぜん鉄道株式会社は、福井県福井市から勝山市・坂井市を結ぶ鉄道路線を経営する第3セクター方式（坂井市、勝山市、福井市など5自治体が出資）の鉄道事業者である。各電車にアテンダントを配置し、接客を充実させるなど数々の新サービスを打ち出すほか、沿線自治体と協力して地域を活性化し、まちづくりに貢献することで、鉄道事業の価値を引き出すことに成功。これまで乗客数を伸ばし続けている。

これらを踏まえ、次の内容について調査を行った。

- ①車内見学
- ②地域鉄道の活性化について

(視察概要)

勝山駅から福井口駅までえちぜん鉄道に乗車し、車内の状況やアテンダントについて見学したのち、本社において、会社の企業理念、地方鉄道の存在意義、地域との共生について説明を受けた。



(5) 文化庁地域文化創生本部

(調査目的)

平成28年3月22日「政府関係機関移転基本方針」により、京都への文化庁の全面的な移転が決定。遅くとも平成33年度中の本格移転を目指すとなっている。平成29年4月には、「文化庁地域文化創生本部」が設置され、本格移転に向けた準備とともに、観光・まちづくりなど文化関連分野と積極的に連携するなど、これまでの文化行政の枠組みにとらわれず、文化庁に期待される新たな政策ニーズに対応した事務・事業を地元の知見やノウハウ等を生かしながら先行的に実施している。

これらを踏まえ、文化庁移転の概要や一部先行移転による効果について調査を行った。

(視察概要)

文化庁の京都移転の経緯や工程、地域文化創生本部の業務概要、文化庁の機能強化について説明を受け、文化庁とのテレビモニターによる通信を体験した。

